

発行：日大土木会広報部会

〒101-8308  
東京都千代田区神田駿河台1-8  
日本大学理工学部土木工学科内  
TEL：03-3259-0662  
FAX：03-3293-3319  
http://www.nu-dobokukai.com

# 日大土木会会報

## 会長挨拶 二年間を振り返って

### 西松 好郎



本会「日大土木会」でございます。

平成十二年の設立で、本年で十八年目の活動となりませんが、初代会長の山田清臣先生から、森元峯夫氏、故松田慎一郎氏、竹沢三雄先生、盛武建二氏の歴代会長の諸先輩方も同じようなことを考えておられたのではないかと思います。

会員の皆様、二年前にこの日大土木会会長を引き受けさせていただきました。就任当初より会員の母体である土木系各学科（理工学部土木工学科、交通システム工学科、工学部土木工学科、生産工学部土木工学科）の主任教授の先生方と話し合いを持たせていただきました。話し合いを持った際に感じた事は、この日大土木会の必要性であります。学生時代は、それぞれの各学部や学科で学びましたが、卒業後は官民間問わず、学部もしくは学科の小さいチームではなく、オール日大の土木技術者として諸先輩が活躍しておられます。その人数は他大に追従を許さない勢いを創設以来誇っているのが、我が日大土木であります。すなわち卒業後のオール日大の土木系卒業生を受け入れる組織も別途必要であることの意味しております。それが、

設立当初こそ、時代の背景もあり、活発に活動をしてきたようではありますが、現在の活動状況は必ずしも活発であるとは言えません。2000名近くいた会員数も現在では約1000名となっております。会費納入者は2、300名にとどまっております。事務局は専任者もなく、大学の先生方が教育や研究活動の合間に行われているのが現状であります。そのような中でも、年2回の会員向け会報の発行、各学科への教育補助費の贈呈、各種講演会等が毎年開催されているのは、私

と同じような志をもたれた関係各位のご尽力と感謝しております。何より本会報を読んでいただける方が居られることに、本会を引き続き存続させていくという活力も湧いてきます。

今後、日大土木会に望まれていることは、やはりメンバーの若返りと積極的に本会に関心を持っていただける方を増やすことであると思います。折しも今年はある通常総会において役員改選をする年になります。オール日大卒業生の皆様におかれては、積極的に本会に参画していただくことをお願い申し上げます。

また、二年後の平成三十二年（2020年）には、東京で2回目のオリンピックが開催される年に、我が日大土木が創設100周年を迎えます。大正九年（1920年）に日本大学高等工学校が佐野利器校長（建築学）、茂庭忠次郎土木科長（下水道工学）のもとに設立され、第1回の卒業生を関東大震災の発災した年（大正十二年・1923年）に送り出して以来、東京の復興並びに日本の発展に本学卒業生が大活躍されたことは誰しもが認める場所であると思えます。

日大土木100周年の節目を迎える今こそ日大土木のパワーを再結集させ、オール日大土木の卒業生と土木系教員との絆を一層深め、母校の発展を図っていききたいと思えます。

皆様方におかれては今後とも、さらなる御尽力を本会の諸活動に

## 土木系各学科

### 主任教授挨拶

昭和四十八年卒業 西松 好郎

御支援いただきましたようお願い申し上げます。

甚だ簡単ではありますが、会長就任二年間の総括に代えさせていただきます。

ありがとうございます。

毎年恒例となりましたが、本学土木系各学科の主任教授の先生方より会員向けに挨拶文をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

昨年からは主任教授が変更になりましたが、本年度より伊藤義也先生から小田晃先生に交代となっております。

## 理工学部土木工学科

### 主任 梅村 靖弘



理工学部土木工学科ならびに土木工学専攻の教室主任を務めております梅村でございます。

日頃より土木教室の教育・研究活動並びに学生の就職に、日大土木会の会員の皆様はじめ多くの校友の皆様のご多大なるご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございます。心より厚く御礼申し上げます。

さて、土木工学教室の近況についてご報告させていただきます。昨年の入試状況ですが、最近の社会資本整備を巡る世論の風向きも変わってきたこともあり、土木工学科志望の受験生が増えるようになり入試偏差値も上昇して参りました。そのような状況の中で、土木工学系を有する他大との併願において、本学はすべり止めになり難くなってきており、その影響から一般入試における志願者数は昨年度から一十八%減少致しました。しかしながら、推薦入試では昨年度なみの志願者が確保できたため、昨年度とほぼ同等な偏差値を維持しながら、二二三名（定員二二〇名）の新入生を迎えることができました。

また、就職につきましても皆様方の多大なご指導・ご支援により好調に終えることができ教員一同深く感謝をしているところです。平成二十九年度は、博士前期課程二一

名、学部一九八名が卒業しました。業種別の主な内訳は、公務員七八名(33.6%)、建設業九〇名(38.8%)、コンサルタント一九名(8.2%)、運輸・通信八名(3.4%)、大学院進学一五名(5.9%)となっており、その他の各方面にも多くの学生を送り出すことができました。

教育面における日大土木会からのご支援の中で、例年、修士論文発表優秀者に対して「日大土木会奨励賞」



学位記伝達式(理工・土木) 締めは全員で乾杯!



来賓で出席された長田幸治 土木部会長(校友会)

を授与していただいております。平成二十九年度は二名が受賞し、三月二十五日の学位伝達式に際して賞状と副賞の贈呈をして頂きました。受賞者名と論文題目は次のとおりです。

○中川拓朗「東京圏における都市鉄道整備における社会経済効果に関する実証分析」

○藏重敬輔「階段状水路における nonerated skimming flow の水理特性に関する二、三の検討」

このような奨励賞のお蔭で大学院生の研究活動におけるモチベーションも上がっており、毎年、学会等外部発表において優秀発表賞等を受賞するなど活躍しております。改めてお礼申し上げる次第です。

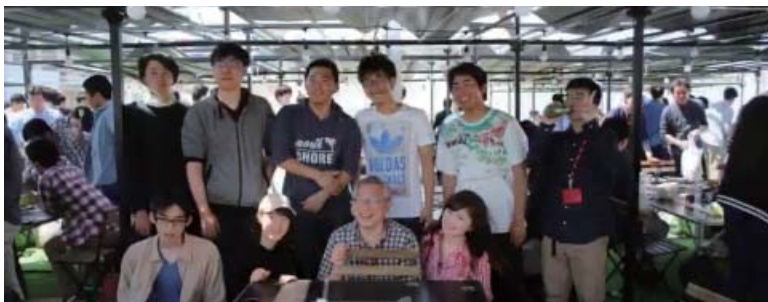
教員組織の面では、この三月末を以て、島崎敏一特任教授(交通計画)が退任されました。また、岸井隆幸教授(都市計画)が六十五歳の定年を迎えられましたが、この四月から特任教授として引き続き教育・研究に当たられます。ここ数年、建

設業社への就職が大変好調なことから、学生が勉学を疎かにするよくな雰囲気にならぬように、厳しく教育する姿勢を崩さず基礎力のある実践的な学生を育てて参ります。引き続き、皆様のご支援・鞭撻をいただけたくお願い申し上げます。

**理工学部  
交通システム工学科  
主任 峯岸邦夫**



交通システム工学科は、皆様ご存じのように学科創設以降、「土木のわかる交通技術者」、「交通のわかる土木技術者」の養成を軸に教育研究活動を行って参りました。社会の要請に応えるべく、常に教育内容の改善に務めて参りましたが、平成二十五年四月に学科の教育内容をより鮮明にあらわした交通システム工学科へ学科名称を変更いたし、今年は一三二名の卒業生を送り出すことが出来



新入生対象のBBQで交流もバッチリ!(理工・交通)

また、平成二十九年一〇月に日本技術者教育認定機構(JABE)の継続審査を受審、本年三月に六年認定の通知があり、当学科の教育の質の高さを評価頂きました。引き続き、教育の質を維持して良い卒業生を送り出したいと思っております。

一方、卒業生の動向ですが、昨年度は日大土木会の皆様方のお陰をもちまして、一昨年度同様に民間、公務員、進学と進路決定率一〇〇%となっております。

本年の新入生につきましては、一一八名の入学者を迎えました。早速、四月二十八日には、オリエンテーションを兼ねたBBQ大会を実施して新入生、教室教職員さらには大学院生も加わって交流を深めることができました。

交通システム教室としましては、随時、同期会、研究室のOB・OG会開催の支援をさせていただいておりますので、大学での開催をご検討されていきます卒業生の皆さんは、教室にご相談下さい。お待ちしております。

結びになりますが、日大土木会の皆様方の今後のますますのご活躍とご発展を祈念申し上げます。

**工学部土木工学科  
主任 渡邊英彦**



工学部土木工学科並びに土木工学専攻の主任を務めております渡邊でございます。主任二年目となります。日大土木会の会員の皆様をはじめ多くの校友の皆様方には、工学部土木工学科の教育活動並びに学生の就職支援に多大なご支援・指導を頂いておりますことに、心より厚くお礼申し上げます。今後とも引き続きご指導ご支援を賜りますようお願い致します。

さて、工学部土木工学科の近況についてご報告させていただきます。入試状況につきましては、自然災害に対する土木の役割、インフラの整備と老朽化問題に対する土木の役割などが社会に広く、そして正しく伝わってきていることもあり、ここ数年、土木を志望する受験生が増加しています。今年も土木工学科には定員を上回る新



入生が入学し、全ての学年で定員を大きく上回る学生数となっております。

平成二十九年度の就職状況は校友の皆様方のご支援により非常に好調で、就職率一〇〇%を六年連続で達成し工学部で最も高い内定率を得ることができました。工学部卒業の新人が先輩方の職場に配属されることもあるかと思いますので、その節はご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成三十年度の教員の退職・新任等の移動はありませんが、梅村順卓

せんが、梅村順卓任講師(地盤工学)が日本大学海外派遣研究員として平成二十九年八月から三ヶ月間、ネパールへ海外出張しました。教員の活動では三名の教員が表彰を受けました。中野和典教授(環境生態工学)は第三十五回環境工学研究フォーラムにおいて環境技術・プロジェクト賞を受賞しました。岩城一郎教授(コンクリート工



土木女子の会(工・土木)グリーンカーテンと一緒に!

学は第六十三回構造工学シンポジウムにおいて論文賞を受賞しました。また、岩城一郎教授と子田准教授(コンクリート工学)は平成二十八年度土木学会論文賞と技術賞のダブル受賞となりました。これらの詳しい内容は工学部ホームページにありますので、是非ご覧下さい。

本年三月の卒業記念パーティーでは土木の三名の学生が表彰を受けました。工学部長賞(学術・文化部門)として土木工学専攻博士前期課程二年浅野和香奈さんと土

木工学科四年浅見雄紀君の二名、工学部校友会賞として土木工学科四年山本夏斗君(第六十一代応援團長)が表彰を受けました。

次に、学生の活動についてです。工学部土木工学科には女子学生でつくる「土木女子の会」(平成六年に発足)があります。女子学生が少ない状況の中での先輩・後輩の交流や情報交換が行われてい



母校を訪ねる会(工・土木)昭和42年卒の方々

カーテン」を設置しました。(左上写真を参照) このグリーンカーテンとは窓際に張り巡らせたネットにツル状の植物を絡ませてカーテンのよう

今年度から生産工学部土木工学科の主任を務めさせていただきます小田です。日大土木会の皆様方には常日頃からご支援を頂

毎年、このような賞が受賞できるよう、院生・教員とも日々研鑽してまいります。次に、平成三十年度の入学生数は二百十七名でした。今後も

最後にありますが、工学部では毎年北桜祭の開催時にあわせ、「母校を訪ねる会」(平成三十年十月二十八日、日曜日)を実施して

また、昨年度は二名の大学院生が学会から表彰を受けております。受賞を受けた学会名称と受賞者氏名、題目は次の通りとなります。

期待するとともに、引き続き日大土木会の皆様のご指導・鞭撻のほどよろしくお願いいたしま

生産工学部土木工学科

主任 小田 晃



○地盤工学会・優秀論文発表者賞  
本多美智子「繰返し一面せん断試験における供試体内変形の観察」

○土木学会・優秀講演者賞  
山田翔太「火山地帯を想定した軽量骨材を用いた土石流の基礎実験」





### その他の情報

#### ●理工学部駿河台新校舎は いよいよ六月末に竣工!

理工学部駿河台校舎において建設中の南棟校舎(仮称)の完成が、来年の六月に予定されております。新校舎は、地上十八階・地下二階であり、六号館(図書館棟)と九号館を解体した後に建設されております。新校舎完成後には本郷通り側にある五号館も解体される予定になっております。土木工学科の全研究室が、新校舎の一〇階と一一階に、実験室が地下二階にそれぞれ入ります。

なお、完成後は、引越越し作業等があるため、実際に



理工学部新校舎 (完成間近)



理工学部新校舎 (玄関付近)

の運用は九月以降の後期授業開始とともに予定であります。

現在の予定では、来る十月二十日(土)にお披露目を兼ねた理工学部ホームカミングデーが駿河台キャンパスにおいて開催されます。参加を希望される方は理工学部ホームページに詳細情報が掲載される予定でありますので、そちらをご覧ください。

#### ●日本大学は二〇一九年に 創立一三〇周年

☆日本大学は、明治二十二年(一八八九年)に、時の司法大臣 山田顕義らによって、日本法律学校(現 法学部)として創立されました。来年(二〇一九)年がいよいよ創立一三〇周年に向けて情報サイトも立ち上げられており、寄付金のお祝い等もあり盛り上がっております。

(<http://www.nihon-u.ac.jp>)  
(130th/)

#### ●理工学部は二〇二〇年に 創設一〇〇年

☆理工学部は、前身の日本大学高等工学校に土木科と建築科が設置された一九二〇年(大正九年)が創設年としておりますので、二年後の二〇二〇年に、土木工学科及

び建築学科と共に創設一〇〇周年となります。

理工学部並びに土木工学科においても各種の記念イベント等も予定されておりますので、情報が入り次第、本誌面にてお知らせさせていただきます。

#### ●日大土木会ホームページ

本会では設立当初よりホームページを会員向けの情報発信のツールとして利用してきております。

ホームページには、設立趣意書、役員名簿、会則、会報創刊号からのバックナンバー含む)等の情報を公開しております。  
(<http://www.nu-dobokukai.com>)

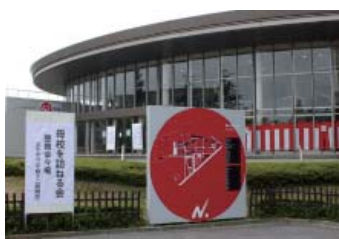
会員の皆様におかれましては、引き続き本会への支援・



日本大学創立 130 年のサイト



日大土木会のホームページ



母校を訪ねる会 (工学部)

ご指導を賜りますようよろしくお願いたします。また、ご意見等ありましたら事務局までご一報お願いたします。

十年、二十年三月の卒業生の方々が該当されますので、是非とも同期で声をかけあっていただきご参加いただけますようご案内いたします。

#### おくやみ

平成二十八年〜二十九年にかけて以下の方の計報が事務局に届いております。

謹んで皆さまにお知らせしますと共に、ご冥福をお祈りいたします。

桃井光子郎 昭和三十年卒  
(理工・土木)

以上一名

#### 会費納入のお願い

皆様方からの会費納入により、本会の諸活動(会報の印刷費・特別講演会・学科への教育補助費贈呈・各種発送費

等)が支えられております。会員の皆様方におかれましては、引き続き年会費(三千元)納入のご協力、よろしくお願ひ申し上げます。  
(事務局より)

#### 編集後記

最後までお読みいただきありがとうございます。第二十四号の会報は、本会会長の西松好郎氏に就任から二年を振り返っていただく挨拶文と、土木系各学科からの主任教授からの情報を中心に制作いたしました。

昨年の総会で話題に挙がりましたが、本学の土木系の新しい学科(理工学部まちづくり工学科、生産工学部環境安全工学科)の扱いを役員会において協議しております。大学においては益々土木工学が多様化しております。引き続き会員の皆様へ情報発信して参ります。(か)



自主創造  
日本大学